

新生児室で働く保育士にできること

高野 里江 先生 (東京都、保育士)

私は東京の多摩地区にある産婦人科病院に常勤勤務して15年になる保育士で、新生児のケアや環境整備、体重測定・沐浴・沐浴指導、入院中の褥婦の骨盤ケアを担当している。その他、産後の育児クラスや、1ヵ月健診の補助にも入っている。

私が骨盤ケア・まるまる育児を知ったきっかけは、助産師 小林いづみ先生との出会いで、それまでは「産前産後は当たり前」と思っていた腰痛が、トコちゃんベルト着用によりアツという間に改善されたことに驚いた。また、眠れず泣いている児をバスタオルで丸く包んだ途端にグッスリ眠るなど、全てが新鮮で驚きの連続だった。その後、私は児のつらそうな姿がとても気になり、「一から自分で学んでみよう!」と学び始めた。

現在、当院ではバスタオルで作ったまるまる寝床を使用し、できるだけ出生直後から全ての児にマイピーロネオ・おひなまきを使用している。生後数日間のちょっとしたケアの違いで、児がこんなにも穏やかに過ごせることに感動の日々を送りつつ、これは退院後の育児の安楽度や、その後の子どもの発達の良否にも、大きくかかわるのではと想像している。

最近では、定額前の児を預かる保育施設も増えているが、新生児ケアや乳幼児保育に携わる全ての人々にまるまる育児を知っていただきたいと願っている。と同時に、私のように新生児室勤務希望の保育士はきっと多いと思うので、ぜひとも積極的に保育士を病院で雇用していただきたいと願っている。

